

しんち

広報

12月1日現在

🏠	1.894世帯
♂	男 4.205人
♀	女 4.432人
合計	8.637人

58号

51 / 1



賀 正

とじておきましょう。

「たつ年」の夜明け

明けましておめでとございます。

多難だった昭和五十年を送り、新しい年を迎えました。日本の経済は大きな試練に立たされていることから、今年の道も決して安穩なものではなく、厳しさに終始することが予想されます。

しかしことしは「辰年」であり辰とは、陽気盛んとなり、のびやんでいた草木が、大きく伸長する意があるといわれています。

また「龍」は四霊獣の一つとして祥瑞(しょうずい)のしるしとされています。

龍の天に昇るがごとく、勢よく上昇する一年であるように、力を合せて困難を乗り越えるようにしたいものです。

誰からも喜ばれる町政

町長 橋 本 正 一



新年おめでとうございます。

昨年をふり返ってみますと、国の総需要抑制、財政の硬直化の中にもありましたが、町において計画いたしました事業がほとんど実施できましたことは、議会を始め町を挙げての御協力の御蔭であり、町政進展のため喜びに堪えないところであります。

ほ場整備の促進

一般に農業者が他産業従事者に比較して所得が少ないといわれておりますが、これは農産物は米を除いて価格が安定していないことと、また、一面労働力がかかり過ぎるためであります。

段階的開発の推進

新地町における最大の課題は、なんと申しても相馬港の建設と背後地の工業団地の造成であり、こ

模拡大の上に、また、一方誘致いたしました工場で農外所得を得ていかなければなりません。

このようなことから未ほ場整備地区においては一日も早く実施されまよう要望するものであります。

五十一年度は、大戸地区の残り一戸と駒ヶ嶺地区に入りますので、その早期完成をいたしたいと念じております。

なお、ほ場の整備を進めて行くことでの懸案は灌漑用水でありますが、鴻の巣ダムは五十一年度に完成いたしますし、鹿狼溜池は年内に補修完了し、その他菖蒲谷地溜池、十三奉行等の件につきましてもほ場整備とかみ合せて施行いたしたいと存じます。

釣師漁港の促進

釣師漁港の整備は五十一年度中に南防波堤も一応完了していただき、なお、岸壁を附設することと開運道路の舗装を皆様の御協力をいただいて完了させたいと存じます。

道路の整備

道路の整備につきましては、財政的に見て町単独事業は至難であり、すべて制度資金を活用して進めて参りたいと存じます。公共事業の管谷今神線の継続、開拓道路

として小川赤柴線、辺地道路としての中里上真弓線、ならびに笠松狼沢線は、五十一年度中に完了する計画です。農免道路として新地町裏から杉目間の道路の部分は五十年で完了いたしますので五十一年度は杉目管谷線の設計調査に入ります。

健康管理

昨年、御協力いただきました献血運動は県内まれに見るものだけに、各部落ごとに友の会を結成し、その万全を期していただきたいと存じます。

また老人の健康管理につきましては、早期診断早期治療と合せてとくに、家族のかたがたは勿論のこと関係各位の御協力を得て敬老の町にふさわしい、健康で明るい生活ができるよう御協力をお願い申し上げます。

遠望深慮

なんと申ししても、町が置かれている位置づけが誠に大切な時であり今日の一步は今後取り返しのつかないといわれる時だけに、「遠望深慮」がなにより大切だと存じます。議会におかれましても充分御審議を重ねるとともに町民の皆様ともよく御相談に乗っていただいで誰からも喜ばれる梅のない町政を施行いたしていきたいと存じますので、特段の御協力をお願いして年の挨拶といたします。

明けましておめでとうございます

- | | |
|-----------|-------|
| 町長 | 橋本正一 |
| 助役 | 荒和英 |
| 収入役 | 加藤智記 |
| 教育長 | 佐藤洋一 |
| 総務課長 | 三國孝之 |
| 税務課長 | 本田好信 |
| 企画開発課長 | 目黒美津英 |
| 住民課長 | 小野義男 |
| 建設課長 | 鈴木義昭 |
| 農政課長 | 加藤邦昭 |
| 議事事務局長 | 横尾富男 |
| 農業委員会事務局長 | 目黒和夫 |
| 公民館長 | 鈴木一夫 |

生活基盤の確立に努力

議長 寺 島 春 吉



町民のみならず、明けましておめでとうございます。みなさんもお元気で新年をお迎えのこと心からお喜び申し上げます。

成人式を迎えて

私の感想

ことし成人式を迎えられるのは福田地区四十五名、新地地区区百八名、駒ヶ嶺地区六十二名の計二百十五名のかたがたです。このうちの数人のかたがたから感想文をいただきましたので本号と次号の二回にわたり掲載いたします。

中江さつ子 (釣師)

二十歳。その言葉のもつ響きを私は幾度となくこの胸の奥底でかみしめている。数々の思い出多い十代とも別れを告げ、今日のよき日をもって私たちは大人の仲間入りをするわけである。

私は幼ない頃から二十歳になれば、お酒も飲めるシタバコもする。そして社会の一員として堂々とこの手で、選挙権を獲得するこ

とができると思うっていた。

確かに成人ならではのすばらしい特権を与えられるということには私たちにとって一大革命のようなものである。そこで私は思うのである。ただ何気なしに与えられたものを消化して行くのではなくやはり責任のある、また節度ある物の見つけ方、行動をとらなければならないはずであると。それに子供から大人に巣立ったという私たちの姿を認めてもらえるのでは

て町政の一端を担うことになり、町民のみならず豊かな生活ができ、明るい日々を送ることができまよう、意を新たに、町政進展のため努力いたす所存であります。

御承知のようにオイルショックのもたらした世界的経済不況は、中小企業の倒産を招き、解雇、就職難と連鎖的反映の様相を呈しな

ないだろうか。私は高校を卒業してすぐ就職をした。それから約二年間、自分なりに自分の仕事に生きがいを見い出そう、そう思って今日までいたった。勤めた頃は自分でできた道であるはずなのに確固たる自信をもてなかった。

しかし、そうゆう私を勇気づけた世の荒波にも耐えて仕事に誇りを持つたせてくれた人々があった。私にとつて子供から大人への、いわゆる大事なステップをそんな暖かい周囲の人たちの思いやりで切り抜けることができたのである。こうした経験は、これからの私の人生に大いに役立つものと信じている。

現在の純真な気持ちを持ち続け

て来ており、長い間の高度成長の夢に安住して来た心を充分反省し考えて見なければならぬ時が来たと存じます。

この時に当り、第一に考えなければならぬ事は、農、漁業の基盤整備の早期完成を期す事と、相馬港拡充に伴い、体制の整備に基づく生活基盤の確立が、わが町の求める基本であると思いま

つつ、さらに物事を忠実に見つめられるように目を大きく見開いて社会人として清実に羽ばたいていきたいと思う。

十人十色、各々に生き方が違う他の人の模倣ではなく自分の道を自分自身で切り開いていこう。「その時その時を精一杯生きる」これが私のもつとうである。一度しかないその一日一日を大切にしていきたい。

荒 智 春 (作田)

はたちという年齢に達し、社会人としての仲間入りが本当にできるのかと思うと、非常にうれい反面、責任という言葉が急に頭の中をよぎり不安をかきたてる。今まさに、成人を迎え社会人としての責任の一步を踏み出そうと

す。これらの大きな事業達成には、容易ならざる事ではありますが、みなさんの深い御理解と御協力によって、豊かな町の将来と町民みなさんの生活安定のため、ともに手を携え、努力して参りたい所存でありますので、よろしく御願ひ申し上げ、年頭のあいさつといたします。

「とにかく、責任ある行動をとらなくては」そう私は自分に言い聞かせた。なぜなら、今まで私は利己的であり、そして放任的であったからである。

今後は社会から、もう一人前の人間として見られていることをいつも頭の片すみに置き、常に自分が主体制を忘れないで仕事に励み青春のエネルギーを爆発させていきたいと思ひます。

とにかく今は、二十歳まで自分を育ててくれた両親、その他私を見守ってくれたかたがたに対し、感謝の気持ち一杯です。

いつまでもその気持ちを忘れな

町の財産表 (昭和5年3月31日現在)

区分	項目	昭和49年度 現在高	区分	項目	昭和49年度 現在高
行政財産	土地	101,516㎡	物品等	クローラ トラクター	1台
	建物延面積	22,293㎡		グレーダー	1台
普通財産	土地	3,239,048㎡		ジープ	1台
	普通乗用車	4台		消防自動車	3台
物	ライトバン	4台	可搬式 動力ポンプ	17台	
	軽ライトバン	1台	有価証券・その他	4,449千円	
品等	バイク	6台	積立金(特別会計)	5,109,385円	
	大型ダンプ	1台	土地	25,529,257円	
	小型ダンプ	1台	現金	12,662,444円	
	マイクロバス	1台	その他	1,500,000円	
	ショベル ローダー	1台			

町の財産

町有財産は役場庁舎、学校、保育所、町営住宅などのように、直接行政の用に供されている行政財産と、これ以外の財産、すなわち普通財産とに大別されます。これらの財産は直接、あるいは

間接的に町民のみならずの生活に関係がありますので、町ではその取得管理および処分については、条例や規則などに基づいて、適正な管理と効果のある運用をはかっております。昭和四十九年度末における町有財産のおもなものはつぎのとおりです。

町の借り入れ金

二年度以上にわたる町の借り入れ金を地方債(町債)といいますが、この金は道路や橋の整備、学校公営住宅などの大規模な建設事業に多額の経費を要する場合、その財源として借り入れるもので、一定の制約のもとに認められており

昭和四十九年度の主な事業

1. 新地北工業団地道路改良事業 三千六百万円
2. 新地北工業団地県行造林購入事業 八百九十六万七千円
3. 失業対策事業 一千四百八十六万三千円
4. 農業基盤整備事業 一千八百三万九千円
5. 地籍調査事業 七百八十四万九千円
6. 漁業構造改善事業 三百九十六万五千円
7. 県営釣師浜漁港修築事業 一千五百二十五万五千円
8. 林業構造改善事業 三百九十六万五千円
9. 県営駒ヶ嶺道路等補修事業 五百九十一万七千円
10. 県営農免道路改良事業(辺地対策事業) 三百二十二万二千円

地方債借入先別現在高調

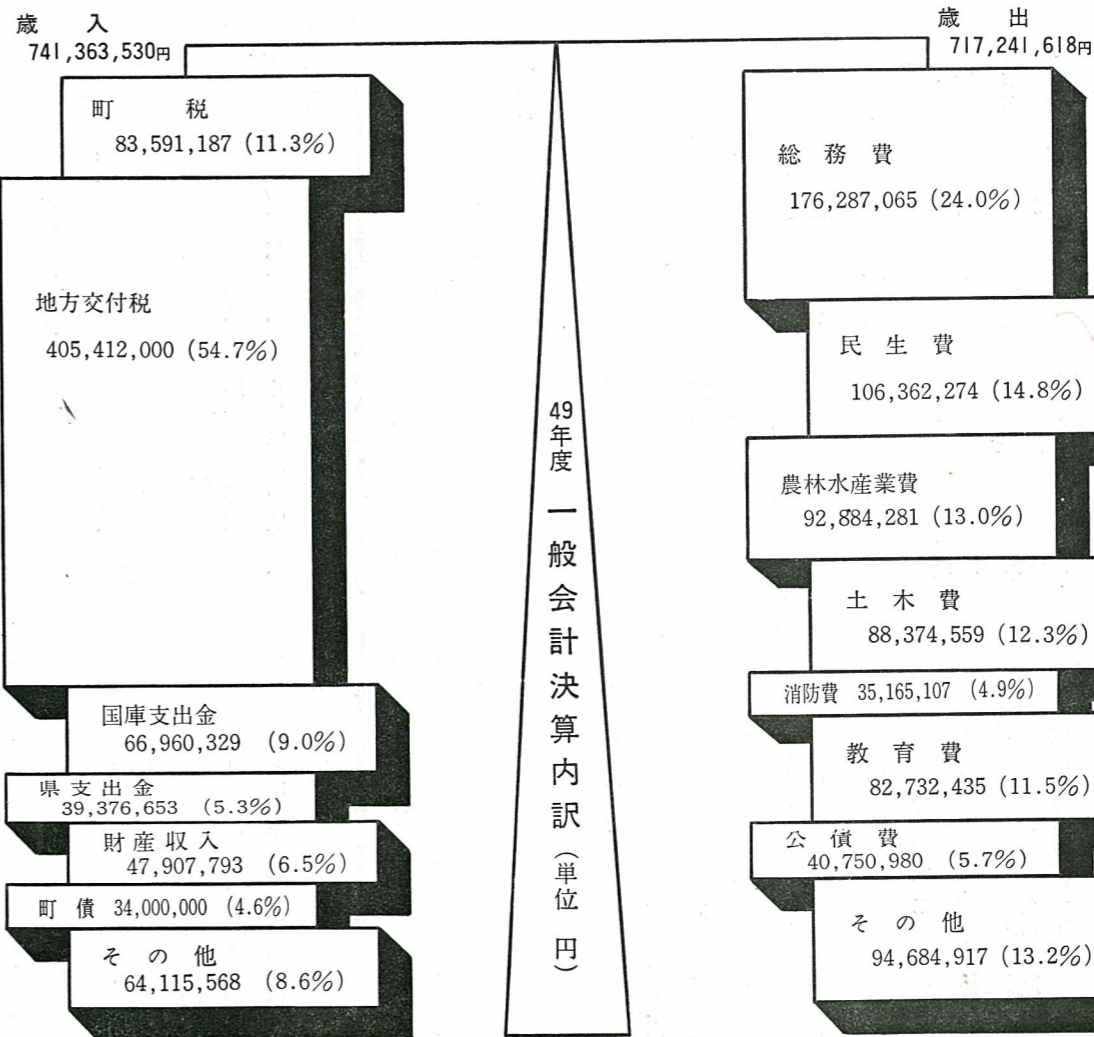
(単位千円)

区分	昭和48年度末 現在高 A	昭和49年度 発行額 B	昭和49年度 償還元金額 C	差引現在高 A+B-C D	
1. 政府資金	271,445	27,000	11,193	287,252	
内訳	(1) 資金運用部	147,472	22,800	6,083	164,189
	(2) 以多のもの	119,213	22,800	5,239	136,774
	(3) 年金資金によるもの	28,259		844	27,415
	(4) 簡易保険局	123,973	4,200	5,110	123,063
2. 市中銀行	3,824		476	3,348	
3. 共済組合(恩給組合を含む)	11,320		3,234	8,086	
4. その他	32,225	7,000	6,220	33,005	
合計	318,814	34,000	21,123	331,691	

昭和49年度 一般会計決算の公表

決算は、年間の予算の執行結果を単に計数的に表現したものでなく、堅実で効率的な行政の運営を基調とし、ひたすら住民の福祉を追求してやまなかった努力の記録であり、また、それによって果された進歩の尺度でもあります。国の予算、経済情勢が町の財政におよぼす影響は大きく、昭和四十九年度をふりかえってみると、昭和四十八年度の石油危機を契機として、物価の高騰が一層激化するところとなり、その混乱の状況はまさに狂乱の名にふさわしいものでした。

このような情勢の中、国においては財政、経済両面にわたって厳しい総需要抑制措置が講ぜられ、これまでの経済の基調が高度成長から安定ないし低成長に転換し、また、町財政の運営も容易ならざるものがありました。多様化している住民の要望を的確にとらえ各種重要施策を積極的に推進しながらも、税収入を始めとする自主財源の確保、消費的経費の節減を図り、限られた財源を効率的に配分することにより引き続き健全財政を堅持することができました。主な内容はつぎのとおりです。



昭和49年度特別会計決算

水道事業

入				出			
歳	款	収入済額(円)	%	歳	款	支出済額	%
新地簡易水道事業	1. 使用料及手数料	8,076,369	58.6	新地簡易水道事業	1. 簡易水道費	11,658,699	84.7
	2. 財産収入	60,333	0.4		2. 公債費	2,108,612	15.3
	3. 繰入金	746,000	5.4		3. 積立金	0	
	4. 繰越金	10,385	0.1		4. 簡易水道事業費	0	
	5. 諸収入	4,884,700	35.5		5. 繰出金	0	
	合 計	13,777,787	100.0		6. 予備費	0	
駒ヶ嶺簡易水道事業	1. 使用料及手数料	1,557,065	93.5	駒ヶ嶺簡易水道事業	1. 簡易水道費	1,161,653	70.2
	2. 財産収入	12,999	0.8		2. 公債費	493,952	29.8
	3. 繰入金	85,000	5.1		3. 積立金	0	
	4. 繰越金	10,741	0.6		4. 簡易水道事業費	0	
	5. 諸収入	200			5. 繰出金	0	
	合 計	1,666,005	100.0		6. 予備費	0	
上真弓飯料水供給施設事業	1. 使用料及手数料	182,500	61.4	上真弓飯料水供給施設事業	1. 飲料水供給施設費	149,641	51.2
	2. 財産収入	590	0.2		2. 積立金	0	
	3. 繰入金	109,000	36.6		3. 公債費	142,600	48.8
	4. 繰越金	5,417	1.8		4. 予備費	0	
	5. 諸収入	0			合 計	292,241	100.0
	合 計	297,507	100.0				

新地北工業団地土地取得造成事業

入			出				
歳	款	収入済額(円)	%	歳	款	支出済額(円)	%
1. 財産収入		41,140,000	100.0	1. 土地取得造成事業費		41,405,257	100.0
		0			2. 繰出金		0
	3. 繰入金	0		合 計			41,405,257
合 計		41,410,000	100.0				

昭和49年度歳出人口一人当りの決算額

昭和48年人口8,744人
昭和49年人口8,782人

	昭和49年度人口一人当りの決算額	昭和48年度人口一人当りの決算額	比 率
議会費	2,884円	2,105	137.0%
総務費	20,074	11,469	176.8
民生費	12,111	9,849	123.0
衛生費	3,167	2,492	127.1
労働費	1,703	1,794	94.9
農林水産業費	10,577	9,459	111.8
商工費	725	272	266.5
土木費	10,063	9,316	108.0
消防費	4,004	3,234	123.8
教育費	9,421	5,967	157.9
災害復旧費	633	50	1266.0
公債費	4,640	4,033	115.1
諸支出金	1,669	2,007	83.2
合 計	81,671	62,047	131.6

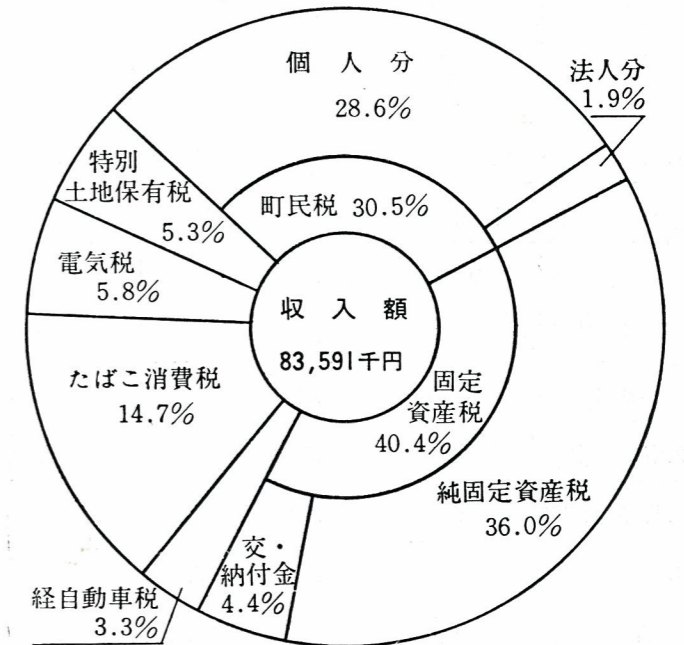
昭和四十九年度一般会計の町民一人当りの歳出額は八万一千六百七十一円(三・六割)の伸びとなっています。七十一円で、昭和四十八年度の一人当り六万二千四百七十七円より、一人当りで増えたものです。

一人当りの歳出額
八万一千六百七十一円

業種一別人当りの税額

	納税義務者数	総所得金額	一人当り税額
給与所得者	1,642人	1,290,654千円	10,290円
事業所得	営業所得者	241	187,481
	農業所得者	679	407,298
	その他の事業所得者	285	103,339
その他の所得者	4	1,738	2,000
計	2,851	1,990,510	7,196

給与所得者=所得金額のうち給与所得が最も大きい者
 業 = 営業から生ずる所得が最も大きい者
 農業 = 農業から
 その他の事業所得者=事業所得のうち営業・農業以外の所得が最も大きい者
 その他の所得者=給与所得、事業所得以外の所得が最も大きい者



- 11 町道南菅谷福田線道路舗装事業 (辺地対策事業) 一千二百二十一万七千円
- 12 町道菅谷今神線道路改良事業 (一級道路整備事業) 九百万円
- 13 町道駒ヶ嶺福田線道路関連舗装事業 六百九十万円
- 14 県道金山新地停車場線道路舗装事業 二百六十八万二千元
- 15 愛宕道路舗装事業 (尚英中道路) 二百三十万円
- 16 消防施設整備事業 (防火水槽小型動力ポンプ) 二百六十六万円
- 17 尚英中学校整備事業 (屋上改築給水施設) 七百四十万円
- 18 生活改善推進事業 (祭壇三基) 百九十六万四千元
- 19 農林水産業施設災害復旧事業 (鹿狼溜池、菅ノ沢) 五百五十六万二千元

四頁より続く

昔のお正月(遺稿)

山崎 荒 保

明治末期ごろの正月の行事を思い出して書いて見る。

年末近く

二十五日 納豆ねせ

二十六日 煤掃き

二十八日 餅つき

三十日 年取り

門松建、普通の家にては、定口に建てたが、私の家では庭に建てた。神はまず庭に下り、庭を通って家の正面より家に入ると信じていた。お明神にも門松を建てる。

御年縄、母屋は各室、倉、納屋、馬屋、湯殿、お明神さま、御被札、白持柱には、御田の神、御年棚には、歳徳神札、御伊勢棚には照皇大神、恵比須大黒の御札窓、流場にはそれぞれの札を張る神迎、夕方家内一同にて、お産土様にお参、御神酒三献、肴を供い拜む、庭の門松も同じ。

元旦、若水汲、年男は真先に起きて若水を汲取る。先日、手桶の取手や柄杓の柄には白紙を巻き、水引を掛けてある。

初炉、塩と水にて炉を清め、豆からにて焚付ける。

元朝詣、留守一人残り、家内一同にて鎮守様、稲荷様等へ。朝風呂、女は水を汲み湯を沸し年男は一番先に入る。

食事、朝は搦立の餅食、中食なし、夕食早し

二日、買そめ、着そめ、歌いそめ、書そめ、達筆和合貴福円万新玉の年の始めに筆取りて

万の宝書(掻き)そ集むる初夢、紙にて舟をたたみ、枕の下に入れてねる。

ながきよのおのりふねのみなめざめなみのねふりのおとのよきかな

悪い夢をみたときは夢の舟を馬屋に捨てた。

三日 休業、この日までに年始回礼を終るようになる。

四日 嫁婿引、新婚夫婦、親類に年始回礼。

五日

六日 七草集め、せり、なすな、ごきよう、はこべ、ほとけのざ、すずしろ、これが七草。ごきようやほとけのざがないときは菘苔を用いた。

七日 七草叩 年男は旦と同じく若水を汲み、炉に火を焚き付ける。

七草叩くなたたく

唐土の鳥のこねうち叩く

之を唱いながら七草を切板の音高らかに細かに切る。

八日 初八日この日は山仕事はしない。山仕事をすれば災難ありという。

十一日 農の始め、拜松を田と畑に納める。農具の点検、補修、ことに苗代の事に重点をおく。

午後から休業。種子扱、其他の種子の計画を立てる。

十四日 餅搗だんごさし。夜にかせどりあり、何か芸をやった。

芸をやれないものは、鼻を鳴らした。それに対してお金やもちをくれた。

水木あるいはだんごの木にだんごを挿し、各座しきや産土様に供す。午後十一時ごろより小豆粥を煮る。

十五日 門松おくり、午後零時年縄に小豆粥を掛け、産土様へ納める。「もうどのとうりホイホイ」と年男は音頭をとって何回も唱いながら門松を送る。夜中に小豆粥を食う。

焼試し、灶の囲り灶の燵を右より弓なりに十二個、閏年には十三個並べ、燵の光によってその年の十二カ月の天気を占う(以下略)

新地歌壇

夜の道に飯こげる匂ひただよいて

母と過ごせし秋を思へり

霜月に入りて降りつく雨にぬれ

扱きおくれたる稲架目にたつ

白菜の新春持ちて来し友に

熱き茶すすめる初雪の午後

庭に咲く小菊に枯葉重なりて

我が吐く息の白き朝かも

目覚むれば嵐は去りて晴れ渡り

杉の葉ひろう立冬の朝

夕ざりて岸辺に並ぶ燈籠の

一つ一つに灯のともしけり

酒汲めば征きて帰らぬ長男を

語りて泣きし兄も死す

目黒 美津英

荒 たまじ

目黒 ます代

遠藤 傳

三宅 康

加藤 けさい

太田 智恵子

目黒 ます代

荒 たまじ

目黒 美津英

遠藤 傳

税金の還付を受けるための

申告はお早めに

昭和五十年分の所得税の確定申告と納税は今年の二月十六日から三月十五日までとなっています。確定申告をしなくてもよいからといって納税しないうちの申告をすれば、納めすぎとなっている税金の還付を受けることができます。

確定申告をすれば税金がもどるのは、例えばつぎのようなかたです。

給料などから所得税を引かれていたかたでは、

① 災害や盗難などで、住宅や家財に受けた損害額が所得の10%を超えたとき。

② 本人や家族の病気で、支払った医療費が、所得の5%か五万円以下の低いほうの金額を超えたと

き。

③ 床面積が、一六五平方メートル以下の新しい住宅を取得したとき。

④ 中途退職し、その後就職しなかったため、年末調整を受けなかったとき。

予定納税をしたかたでは、年税額が予定納税額未満となったとき還付を受けるための申告は、一月より受け付けていますので、早めに済ませて税金の還付も早く受けられるようにしましょう。

手続や要件など詳しいことは、もよりの税務署へご相談ください

日頃の練習ぶりを遺憾なく発揮しみごと初段の栄冠を獲得いたしました。

荒聖喜(中里) 伊藤胞一(大戸浜) 伊藤文斉(釣睡) 小泉千代吉(新地町) 佐藤義一(相馬市) 塩沼松一(作田) 角田義正(上真弓) 寺島昭幸(駒町) 目黒庄治(釣師) 渡辺秀典(高田)

昇段おめでとう

去る十一月二十四日、原町警察署において、福島県剣道連盟相馬支部主催による昇段審査会が行なわれ、新地の剣道クラブからもつぎのかたが審査会に出場し、

愛の献血に

御協力ありがとうございます

昭和五十年十二月六日(土)七日(日)の献血に際しましては六百四十八人のかたがたの御協力がありました。

実際に採血されたかたは五百一十五人で、それぞれに献血手帳をお渡しいたしました。

血液型は日本赤十字血液センターから通知がありますから献血手帳に記入してください。

どこかで、だれかが、不慮の事故や病気で輸血を必要としています。

血液は現在の科学の力をもってしても人工製造することは不可能です。あなたの血液でそのかたの生命が助かるかもしれません。

人間の生命は貴いものです。本当に愛の献血に御協力ありがとうございます。

果はつぎのとおりです。

献血受付者数 六四八名

採血者数 五二五名

不採血者数 一二三名

採血率 八一割

血液型判定者数 一一九名

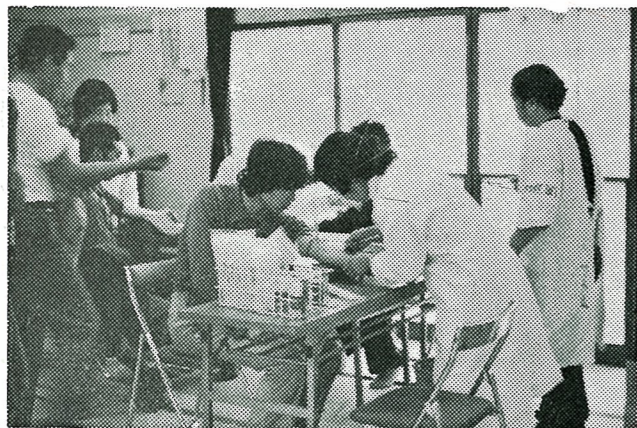
A型 三三名

B型 三三名

AB型 一四名

O型 三九名

なお献血および血液型判定の結果



公立相馬病院の診療体制

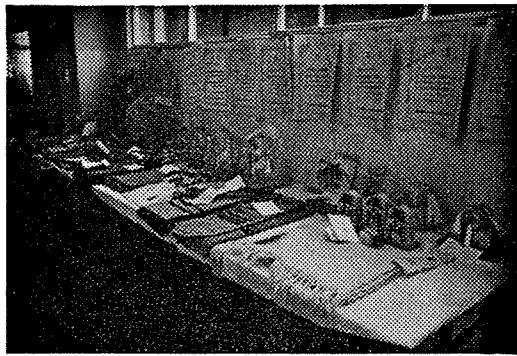
診療科目	担当医師	診療日
内科	半沢元彦	月～土
〃	遠藤徳雄	〃
〃	大学病院医師	〃
外科	横山安邦	〃
〃	大学病院医師	〃
整形外科	村田修	〃
〃	井上和郎	〃
産婦人科	北山哲也	〃
眠科	清宮輝夫	〃
耳鼻咽喉科	大学病院医師	毎週金曜日

但し、日曜、祝祭日は宿日直医師1名です。

寺島エナヨさんら八名

相双地方老人作品展に入選

昭和五十年十一月二十三日、二 社会福祉協議会など各種団体の後
 十四日に相馬市立中村第一中学校 援のもとに行われました。
 において、相双地方老人作品展 新地町からの出品数、入選者は
 会が福島県主催、相双市町村共催 つぎのとおりです。



- 出品数 三十三点
- 入選者 (敬称略)
- 銅賞 寺島エナヨ (小川)
- 〃 黒はばきフヂノ (岡)
- 佳作 目黒 謙 (富倉)
- 〃 荒 ヤスヨ (木崎)
- 〃 佐藤コマツ (今泉)
- 〃 吉田とし子 (大戸浜)
- 〃 鈴木ムメヨ (駒町)
- 努力賞 菅原ハル (城内)

町史編さんに

御協力ください

かねて、新地町史編さんを計画し、いろいろと進めてまいりましたが去る七月より専門委員四名に一名 (藤崎、教育委員山口久夫氏) を増員し、常勤でこの業務にあたっております。

そして、いよいよ昭和五十一年度より執筆に入ることになりましたので、町内のみなさんから資料の御協力をいただきたいと思えます。

古文書、書、画、諸記録および図面、民具、民芸品などお持ちのかたは教育委員会 (電話二〇八五) にお知らせください。

お知らせいただいたなら、編さん委員がお宅に伺います。

どうもありがとう

次のかたがたからあたたかい御寄付をいただきました。

○ 故人太田のよさん (上真弓) の御遺志により、社会福祉のために御用立ててくださいと、喪主太田智明さんから、新地町社会福祉協議会 (会長菅野喜次郎) に五万円

○ 新地町の小野鉄工所 (小野栄) さんから、国旗掲揚柱の御寄付があり、新地町教育委員会で はさっそく公民館グラウンドに取付けました。

○ 尚英中学校自転車置場の床コンクリート工事に対し、相馬秩父生コンクリート新地工場から生コンクリートの御寄付がありました。



十一月届出

町長日記
 楊中二

△ 亡	お悔み申し上げます	△ 生	おめでとございます
太田のよ	81	上真弓	
西谷 幸子	26	釣 師	
荒 こきみ	80	作 田	
目黒 武司	80	杉 目	
渡辺 好	89	小 川	
秋子	渡辺 宗一	明地	11月
幸雄	小野 勝雄	釣 師	11日 相馬高校運動場設置期成帯任委員会
大輔	荒 芳博	埴 浜	13日 市町村会
繁 林 義久	上真弓		14日 臨時議会 簡易水道協合理事会
克宏	斉藤 清	中 里	15日 都市計画公聴会
秀人	荒 龍世	鉄炮町	20日 土地改良区理事会及び総会
徹 小泉 宏	新地町		21日 県地方港湾審議会
澄江 遺水 進	大戸浜		22日 広域圏正副管理者会議
雅子 東 孝喜	大戸浜		25日 相馬地域開発反対調査特別委員会
幸子 橋浦 清隆	小 川		26日 県町村行政連絡会議 県市町村道路整備促進協議会役員会
			27日 農林省東北農政局より工事現場視察
			28日 臨時議会 農業委員会
			12月
			1日 簡易水道整備促進全国大会
			2日 全国砂防治水促進大会 (東京)
			3日 全国町村長大会 (東京)
			4日 国保制度改善強化全国大会 (東京)
			5日 福相丸森線促進期成同盟会 (東京)
			6日 相馬方部衛生組合特別委員会
			8日 町村会定期総会 (東京)
			9日 道路整備促進全国総決起大会 (東京)
			10日 広域圏正副管理者会議